

独立行政法人 平成 26 年度評価 項目別自己評価調査書

(その他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
No. 11	その他主務省令で定める業務運営に関する重要事項 (人事に関する計画、施設・設備の整備・運営)		
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 26 年度行政事業レビューシート番号 068 (独立行政法人国際交流基金運営費交付金) 069 (アジア文化交流強化事業)

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標	達成目標	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	(参考情報) 当該年度までの累積値等、必要な情報
(1) 人事に関する計画							
研修等に参加した人数		347 人	439 人	428 人			
(2) 施設・設備の整備・運営							
附属機関宿泊施設稼働率(上:浦和、下:関西)		63.9% 69.8%	60.0% 67.1%	56.6% 62.2%			
同上、図書館来館者数〔再掲〕	毎年度設定 (目標値)	36,139 (31,000)	35,940 (28,956)	34,051 (27,770)			年間研修参加者数(人×日)の50%

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価
(1) 中期目標

V その他業務運営に関する重要事項

1 人事に関する計画

上記目標の達成に向けて効率的かつ効果的な業務運営を行うための人材確保を着実に実施するとともに、職員の能力の更なる向上を図る。

2 施設・設備の整備・運営

業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備を行い、効果的・効率的な運営に努める。

(2) 中期計画

IV その他主務省令で定める業務運営に関する重要事項

1 人事に関する計画

上記目標の達成に向けて効果的かつ効率的な業務運営を行うための人材確保を着実に実施するとともに、職員の能力の更なる向上を図る。

2 施設・設備の整備・運営

施設・設備の整備・運営の内容	予 定 額 (百万円)	財源
日本語国際センターの施設整備（セキュリティシステム導入および空調機更新）	165	施設整備費補助金

〔注記〕金額については見込みである。なお、上記の他、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備を行い、効果的かつ効率的な運営に努める。

3 基金法 14 条第 1 項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する事項

前期中期目標の期間の最終事業年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち外務大臣の承認を受けた金額について、やむを得ない事情により前期中期目標期間中に完了しなかった業務及び寄附金収入、運用収入を充てるべき業務等の財源に充てることとする。

(3) 年度計画

IV その他主務省令で定める業務運営に関する重要事項

1 人事に関する計画

上記目標の達成に向けて効果的かつ効率的な業務運営を行うための人材確保を着実に実施するとともに、職員の能力の更なる向上を図る。

2 施設・設備の整備・運営

業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備を行い、効果的かつ効率的な運営に努める。平成 26 年度においても、引き続き、防災等の研修や各種活動の充実を通じて、良好な研修環境や機能の確保を図る。

平成26年度の施設・設備の整備に関する計画

(単位：百万円)

施設・設備の内容	財源	予定額
日本語国際センターの施設整備（セキュリティシステム導入および空調機更新）	施設整備費補助金等	165

計 165

(注) 施設整備費補助金等の具体的な額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。

- 3 基金法 14 条第 1 項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する事項
 前期中期目標の期間の最終事業年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち外務大臣の承認を受けた金額について、やむを得ない事情により前期中期目標期間中に完了しなかった業務及び寄附金収入、運用収入を充てるべき業務等の財源に充てることとする。

(4) 主な評価指標

<主な定量的指標>

特になし

<その他の指標>

附属機関図書館利用者数 年間研修参加者数（人×日）の 50% [再掲]

<評価の視点>

人事に関する計画

- ① 効果的かつ効率的な業務運営に必要な人材の確保
- ② 職員の能力の更なる向上

施設・設備の整備・運営

長期的視野に立った適切な施設・設備の整備と効果的・効率的運営

(5) 法人の業務実績・自己評価

①業務実績

<主要な業務実績>

人事に関する計画

ア. 効果的かつ効率的な業務運営に必要な人材の確保については、総人件費や職員の年齢構成に配慮しつつ、政策的要請に基づく新規事業（「文化のWAプロジェクト」等）に的確に対応するために必要な人材確保のため、4月に5名定期採用したほか、新規事業に焦点をあてた人事配置を行った。職員数の推移は表の通り。

職員数推移

	25 年度	26 年度	
	期末	期首	期末
職員数	227	232	232

長期的人材育成、組織の専門性向上・活性化のため、中央省庁、国際交流団体等と計 16 件の人事交流と、海外事務所長（パリ日本文化会館館長）や日本語国際センター所長、関西国際センター所長、日中交流センター事務局長、CIO 補佐などのポストに民間出身者を登用した。

イ. 職員の士気及び能力の更なる向上については、以下の取組を行った。

(ア) 職員研修の実施

平成 26 年度は、組織力強化および職場環境に焦点を当てた研修を中心に企画・実施した。管理職を対象に、部下の育成およびタイムマネジメントを焦点とした研修（計 2 回）を行い、参加した職員からは「しっかりと自身を省みたい」「しかり方のポイントや安全配慮義務についての情報が役立つ」などのコメントが寄せられた。また理事長以下中堅職員までを対象にハラスメント防止研修を本部および関西国際センターにて（計 4 回）実施し、参加者からは「無意識のハラスメントへの啓発という点で有意義だった」「(必ずしもハラスメントとは言い切れない) グレーゾーンのケーススタディが勉強になった」などのコメントが寄せられた。いずれの研修でも継続的な実施や研修後のフォローアップについての要望も寄せられている。

その他、採用時研修（2 週間）、採用 2 年目職員海外拠点実務経験研修（3 週間）、海外セミナー派遣、実務担当者内部研修、外部セミナー・講義等参加奨励、自主外国語研修費補助等もあわせ計 106 件を実施し、のべ 428 名が参加した。

(イ) 大学等への講師派遣

国内の大学や NPO、地方自治体の依頼に応じて、のべ 46 人の職員が国際文化交流等に関する講義を実施し、国際交流分野における若手人材育成に寄与するとともに、職員自身も自らの経験を客観的に見直し、業務能力の向上につなげることができた。

(ウ) インターンシップ受け入れ

国内では協定を締結している国内の 10 大学から 15 名のインターンを、また海外では、ローマ日本文化会館にて 1 名の大学生をインターンとして受け入れ、国際交流分野の人材育成に貢献するとともに、インターンの指導を通じて若手職員の成長を促すことができた。

(エ) 人事評価制度の運用

平成 26 年度第 1 四半期には、各職員の平成 25 年度分の能力評価と通年の実績評価（当初設定の個人別目標に照らした事後評価）を行い、昇給・昇格及び賞与に反映させるとともに、結果を上司から本人へフィードバックし、職員の指導・育成の手段とした。また、平成 26 年度当初には部署目標及び各職員の個人目標の設定を行い、2014 年 10 月には全職員の上半期分の実績評価を実施し、結果を賞与に反映させた。

施設・設備の整備・運営

日本語国際センター及び関西国際センターの施設・設備の整備・運営については、事務所管理に関する内部規程に則り、日常の業務の円滑な遂行のために必要な環境の保全、秩序の維持及び安全確保に努めた。特に平成 26 年度は以下の取組みを行った。

ア. 修繕

日常の施設・設備の点検、及び平成 24 年度に実施した建物診断による施設・設備の経年変化の状況を踏まえ、両センターにおいて以下の修繕を行った。

- ・日本語国際センター
 - 給水給湯配管設備等工事（前年度に引き続き実施。2014 年 7 月に終了）
 - 研修棟屋上防水工事 等

- ・関西国際センター
 - 熱源機更新工事（2015 年 5 月末に終了予定）
 - 宿泊室内照明機器交換工事
 - 空気調和機インバーター交換工事
 - 給湯循環ポンプ、揚水ポンプ取替工事 等

なお、施設整備費補助金を財源として実施予定であった日本語国際センターセキュリティシステム導入及び空調機更新工事については、事業計画を変更し 2016 年 1 月末に終了予定とし当該財源は平成 27 年度に繰り越した。

イ. 防災訓練

日本語国際センターにおいては、通年にわたり防災訓練を実施し、のべ約 380 名が参加した。特に、2014 年 10 月に地震ならびにその後の火災発生を想定して実施した避難訓練にはスタッフ・研修参加者約 140 名が参加し、訓練を通して通報・初期消火・避難誘導の手順等を確認した。

関西国際センターにおいても、2014 年 10 月に火災発生を想定した避難訓練を行った。スタッフ・研修生約 120 名が参加し、訓練を通して避難経路・手順等を確認した。

ウ. 保有施設運営の効率化

両センターの管理運営経費は以下の通り。

	26年度	【25年度】
日本語国際センター (うち、修繕費)	237,766 (81,066)	260,252 (107,388)
関西国際センター (うち、修繕費)	221,030 (32,489)	229,133 (29,286)

日本語国際センターにおいては建物管理委託費の消費税増加分と光熱水料の増加分により、修繕費を除く運営管理経費が微増、関西国際センターにおいては施設管理用消耗品の見直しによる消耗品代の削減や通信運搬費の削減等により経費削減となっている。

エ. 保有施設の活用状況

平成26年度の両施設稼働率は以下の通り。

日本語国際センターにおいては、主催研修事業において一人当たりの単価を縮減し招へい人数の確保や別の受託研修の実施などで稼働率の維持を図ったが、“日本語パートナーズ”派遣前研修参加者の派遣時期の変更等により研修規模の縮小があったため、26年度計画値と比較して、3.5ポイント程度の減となった。

関西国際センターでは、主催研修事業において一人当たりの単価を縮減し招へい人数を維持することなどに努めた結果、26年度計画値と比較して2.2ポイント増となった。

両附属機関の宿泊施設稼働率

	26年度 実績値	26年度 計画値	【参考】 25年度
日本語国際センター	52.1% (56.6%)	55.7% (60.1%)	56.4% (60.0%)
関西国際センター	62.2%	60.0%	67.1%

※ () 内は、工事による稼働不可室数を除いた場合

図書館利用者数については、両センターともに目標「年間研修参加者数（人×日）の50%」を達成した。

- ・日本語国際センター のべ17,489人（目標：12,437人）
- ・関西国際センター のべ16,562人（目標：15,333人）

② 評価結果の反映状況

<評価結果>

中期目標達成に必要な人材の確保と職員の能力の向上については、引き続き女性職員の登用も含め、働きやすい環境づくりを期待したい。

施設・設備の整備・運営については、宿泊施設の稼働率は高い水準を維持しているが、引き続き努力を期待したい。

<反映状況>

職員の士気の向上および能力の発揮にあたり、個別の実務研修のみならず、管理職のマネジメント能力の強化ならびに職場の環境づくりが重要であるとの問題意識のもと、管理職向けのマネジメント研修およびハラスメント研修を実施して、働きやすい環境づくりを図った。女性職員の登用については、女性の管理職の割合は年間を通じて約20%（政府目標は、平成27年度末にて13%程度）と比較的高い水準を維持しており、また、平成27年4月には常勤理事のポストに女性が任命され、役員における女性の割合は16.7%（政府目標は、平成27年度末にて6%程度）となった。

施設・設備の整備・運営については、一人当たりの単価を縮減し招へい人数の確保や受託研修の実施などにより高い水準を維持している。

③自己評価

<評定と根拠>

評定： B

根拠：

人事に関する計画については、政策的要請に基づく新規事業の着実な執行のために必要な人材の確保と、組織力強化及び職場環境に焦点を当てた研修を中心とする各種取組によって職員の士気及び能力の更なる向上に努めた。

施設・設備の整備と効果的・効率的運営については、附属機関の運営経費の節減を図りつつ、快適かつ安全な研修事業実施のために、平成24年度実施の建物診断にもとづく修繕の実施や防災訓練の徹底に努めた。宿泊施設稼働率については日本語国際センターで予定していた“日本語パートナーズ”派遣前研修の一部が延期となるやむをえない事情により年度当初計画値を下回ったものの、両センターとも依然高い水準を維持した。図書館利用者数については両センターとも目標値を上回った。

上記により、所期の目標を達成していると自己評価する。

<課題と対応>

ア. 職員の士気の向上および能力の向上に関し、個別の実務研修のみならず、管理職のマネジメント能力の強化ならびに職場の環境づくりが重要であるとの問題意識のもと、上記記載のとおり、管理職向けのマネジメント研修およびハラスメント研修を実施した。実質的な変化をもたらすには継続的な努力が必要であることから、今後も上層部の問題意識および現場のニーズを踏まえた研修を企画・実施する予定である。

イ. 施設・設備の整備・運営に関しては、効率的かつ安全に事業を継続するため、中長期的な整備計画を策定した上で、そのために必要な予算確保に努める。

